

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
（総括）研究報告書

循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究

研究代表者 磯部光章 公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院院長

研究要旨

現在わが国では、循環器病リハビリテーション(循環器病リハ)は、脳卒中と心血管疾患や心不全を含む心臓病を対象とした急性期から回復期へのリハが中心となっている。一方で、維持期リハの実施状況、有効性については、エビデンスが著しく不足しており、その実態は不明である。そのため、本研究班ではまず、心臓と脳卒中リハビリテーションにおけるレビューを作成し、実態調査目的の全国アンケートを実施、その後、これらの結果を踏まえた慢性期・維持期におけるリハビリテーションのガイドブックを作成することとした。

分担研究者

中山敦子・榊原記念病院心臓リハビリテーション室・室長

A. 研究目的

本事業では、令和4年度に①国内外の文献を整理し、維持期リハのレビューをまとめ、②回復期から維持期リハへの移行時期に生じる問題点を、学会・協会を通じた全国アンケート調査を実施して解析する。令和5年度では、①②で得られた知見をもとに、医療者、市民を対象に維持期リハの指針を作成する。その後、更にガイドブックを作成することで、医療者が循環器病患者へ適切な維持期リハを誘導することができ、患者自身も知識を得て実践可能とする。

B. 研究方法

①維持期リハビリテーションにおけるレビューは心臓チームにおいて、心筋梗塞、狭心症、心不全の疾患に対するシステムティックレビューが作成された。脳卒中グループでは脳卒中ガイドラインを元にナラティブレビューが作成された。②維持期リハビリテーションにおける実態調査アンケートは、心臓、脳卒中グループにおいてそれぞれ実施された。③維持期リハビリテーションにおけるガイドブック作成は、①レビュー、②アンケートを元に各班員が原稿を作成した。

(倫理面への配慮)

本研究は、ヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則に則り、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を遵守して実施する。研究において使用する研究計画書、情報公開文書、各種手順書及びその他の資料は、倫理審査委員会で審議・承認され、研究機関の長の許可を得てから研究を開始する。これらの資

料等に変更がある場合も、同様に倫理審査委員会での審議・承認及び研究機関の長の許可を得てから実施する。研究責任者は、研究に関わる全ての関係者が研究倫理及びその他の必要な知識・技術に関する教育研修を完了し、さらに研究期間中も継続して教育研修を受けることを保証する。

C. 研究結果

①維持期リハビリテーションにおけるレビューは心臓チームにおいて、心筋梗塞、狭心症、心不全の疾患に対するシステムティックレビューが作成された。脳卒中グループでは脳卒中ガイドラインを元にナラティブレビューが作成された。②維持期リハビリテーションにおける実態調査アンケートは、心臓、脳卒中グループにおいてそれぞれ実施された。③維持期リハビリテーションにおけるガイドブック作成は、①レビュー、②アンケートを元に各班員が原稿を作成した。

D. 考察

レビュー作成において維持期の定義に難儀した。心臓リハビリテーションでは維持期とは保険適用期間であるリハビリ開始より150日間を経過した後を示しており、脳卒中リハビリテーションにおいては、180日間の回復期後の維持期・生活期を指す。よって今回の研究班では「慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究」という題から、より正確に維持期・生活期のリハビリテーションと言語を適正化した。

E. 結論

維持期・生活期リハビリテーションは心疾患においても脳卒中においても有効であり、多施設アンケートの結果では、大多数の施設が保険適用でのリハビリ実施を希望していた。レビューの結果とアンケート結果を踏まえて、どのような場合に維持期・生活期リハビリテーションの実施を推奨するか令和5

年度の事業でガイドブックに記載し、周知する予定である。

F. 健康危険情報

本研究は侵襲を伴わないレビュー作成、アンケート調査、ガイドブック作成のため、健康被害等は生じなかった。

G. 研究発表

1. 論文発表

システムティックレビュー2本、アンケート結果1本をそれぞれ投稿中である。

2. 学会発表

2023年日本循環器学会 委員会セッション(基本法・5カ年計画検討委員会)

3月10日(金) 8:00-9:30

第6会場(福岡国際会議場 2階「201」)

循環器病の維持期リハビリテーションと複合リハビリテーション: 厚労科研事業からの報告

座長:

牧田 茂(FJCS)(埼玉医科大学国際医療センター)

角田 亘(国際医療福祉大学リハビリテーション医学教室)

演者:

1. 循環器病対策基本法から厚労科研事業まで
本研究課題の重要性と今後の展開—
磯部 光章(FJCS)(榊原記念病院)

2. 維持期心臓リハビリテーションの有効性に関するレビュー
明石 嘉浩(FJCS)(聖マリアンナ医科大学循環器内科)

3. 回復期から維持期・生活期への移行時期に生じる循環器病リハビリテーションの問題点—アンケート調査
より—(心臓疾患)
木庭 新治(FJCS)(昭和大学循環器内科)

4. 回復期から維持期・生活期への移行時期に生じる循環器病リハビリテーションの問題点—アンケート調査
より—(脳卒中)
角田 亘(国際医療福祉大学リハビリテーション医学教室)

5. 循環器病に対する複合リハビリテーションを含

むりリハビリテーションの現状と課題の明確化のための研究

(22FA1021)について

藤本 茂(自治医科大学内科学講座神経内科学部門)

2023年脳卒中学会

合同シンポジウム6(日本循環器学会合同シンポジウム)

「循環器病リハビリテーションの現状と未来」

2023年3月16日(木) 16:00~17:30 第7会場(パシフィコ横浜 3F 303)

座長 磯部 光章(榊原記念病院)

藤本 茂(自治医科大学 内科学講座神経内科学部門)

コメンテーター 脳卒中リハビリテーション

に関する厚労省の動向

小笠原 邦昭(岩手医科大学 脳神経外科)

演者 循環器病の慢性期・維持期、および複合リハビリテーションについての研究: オーバービュー
磯部 光章(榊原記念病院)

慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究の文献レビューとアンケート調査

牧田 茂(埼玉医科大学国際医療センター 心臓リハビリテーション科)

脳卒中および心疾患リハビリテーション現場における複合疾患の頻度調査

安 隆則(獨協医科大学日光医療センター 心臓・血管・腎臓内科)

複合疾患を有する脳卒中、心血管疾患に対するリハビリテーションの現状調査

竹川 英宏(獨協医科大学病院 脳卒中センター)

本研究の今後の方向性~慢性期心疾患・脳卒中に対するリハビリテーション医療のこれから~

角田 亘(国際医療福祉大学医学部 リハビリテーション医学教室)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし